



行事予定表

1	金	交通安全教室(5歳児)
4	月	小学校見学(5歳児) 10:30~11:20
5	火	ピョピョひろば
6	水	お別れ遠足(5歳児)
7	木	入園説明会(13:30~)/子育てサロン
14	木	誕生会
15	金	避難訓練(通報訓練)
20	水	お別れ会/お別れバイキング
24	日	卒園式(11時~)
29	金	終業式



梅のつぼみも膨らんで自然はもう春の準備を整えました。ついこの間、新年を迎えたばかりなのにもう三月・・・保育園の一年が巡ってまいります。

年長児はすぐに卒園式別れの時を思うと寂しくなります。子ども達はいろんなことを経験し心も体も大きく成長しました。小さかった年少児もすっかりしました。4歳児は、もう次は園の最年長だと自信もつきました。

保育園では、友達と喧嘩もしたけど仲よく遊びました。泣いたり笑ったり、楽しい一年でした。保護者の皆様のご支援、ご協力のお陰で私達職員も楽しかったです。ありがとうございました。

今月の予定の中から

●交通安全教室(1日)

・今回は5歳児のみの参加です。牛久第二小学校までの道のりを教員の方と交通ルールを再確認しながら歩いてみます。

●牛久二小・小学校見学(4日)

・就学目前の5歳児が、5年生のお兄さんやお姉さんの合唱や合奏を聞き、校内を案内してもらいます。(雨天の場合は、カップ・傘を使用しての実施となります。)

●お別れ遠足(6日)

・今年度は牛久市のバスをお借りして、「つくばエキスポセンター」へ5歳児がお別れ遠足に出かけます。楽しい思い出が一つ増えますように。

●誕生会(14日)

・3月生まれの子どもの待ちに待った誕生会です。みんなで沢山お祝いします！

●避難訓練(15日)

・今年度最後の避難訓練は、消防署の方に訓練を実際に見ていただくと共に、水消火器を使い、消火の実際を見学します。

●お別れ会・お別れバイキング(20日)

・4歳児が進行をして、5歳児とのお別れ会を進めます。4、5歳児は昼食もバイキングです。

●卒園式(24日)

・今年度は37名の子ども達が卒園します。式は11時開始で、年長児として、年長児保護者のみの参加となります。

☆お知らせ★おねがい

☆今年度も、保護者会から避難車カバー、エプロンシアターや玩具等を購入して頂きまして、有難うございます。また、次年度保護者会役員の方も無事決まりました。

☆H31年度日程について

●入園式・始業式：4/6(土) 9時半
●保護者会総会・保育参観：5/11(土) 午前中
●両日共に園行事の為、土曜日保育は実施致しませんので、ご協力お願い致します。

子どもを抱きしめよう!

児童虐待が後をたたない。どうしてあんなに残酷なことが。やり場のない怒りに、胸が張り裂ける程苦しくなる。昔から日本の社会は、子は宝としてきた。江戸から明治にかけて来日した外国人が驚いたのは、子ども達がとても大切にされ、男も女も子どもを抱き、頬ずりをしてかわいがっていることだった。生活は質素で、実に貧しいが、子ども達は道路でもどこでも、喜々として楽しそうに遊んでいた。それを見ている大人は、みんな笑顔であった。▼数十年前に、取手市で小学校低学年の男児が虐待死して以来、児童虐待防止協議会等に関わってきたが、児童虐待は爆発的に増加している。虐待死が明らかになると、マスコミも騒ぎ、児童相談所や教育機関が責められるが、原因は非常に複雑である。もともと家族という私的な領域に、行政権力が過度に介入すると、修復することができないことも、できなくなる恐れがあり、非常に微妙なバランスを必要とする。また、対応する行政の職員は、少人数で急増した虐待件数をかかえ、疲れ切っている。▼なぜ虐待が増えているのか?冷静に考え、原因を考えてみる必要がある。虐待が増加したその時代、その社会、その変化を考えると、原因は無数にあり複雑である。殆どの場合、父親が点々と職を変え、居を変え、自立できない母親が父親のDVに耐えながら付き従っている。取手の事件も、目黒の結愛ちゃんも、野田の心愛ちゃんの場合も同じである。

▼その底にあるのは、貧困であり、格差である。それが親の心を荒んだものにして、弱い者に攻撃の矛先を向ける。江戸から明治の日本社会は、質素で貧しかったが、貧困はなかった。今の時代、今の社会は、だれもが車を持ち、食べるのに困らず、とても豊かだが、貧困と格差が広がり、心が荒んでいる。格差をなくし、貧困がない社会と、そのための政治が求められる。富裕層には、無償化は不要である。競い合い、比べ

合うことは止め、物質的な豊かさを追い求める時代は終わりにして、心の豊かさを求める時代に転換しなければならぬ。▼殺された2人は「愛」という名が付いている。子を授かった時は、愛情に包まれていたろう。それが、苦しい生活の中で鬼になってしまったのか。親だけでもなく、行政に任せるだけでなく、社会全体が、子どもを守り育てることが大切だ。子は個人の子ではなく「社会の宝、国の宝」だったのが日本の社会であった。そうであるなら、他人の子でも、口を出し、手を貸し、みんなで育てる意識を持ち、一人の親の負担をなくすこと、それが虐待防止、少子化対策にもつながる。

最後に、公共広告機構が出した広告を載せます。じっくり読んで下さい。

子どもの頃に、抱きしめられた記憶は、ひとの心の奥のほうの、大切な場所にとずっと残っていく。

そうして、その記憶は優しさや思いやりの大切さを教えてくれたり、ひとりぼっちじゃないんだって、思わせてくれたり、そこから先は行っちゃいけないよって止めてくれたり、死んじゃいたくない切ないときに支えてくれたりする。



子どもをもっと抱きしめてあげて下さい。ちっちゃな心は、いつも手をのばしています。

理事長 浅田 精利

